

香春町学校再編整備基本方針

平成 27 年 5 月 11 日
香春町教育委員会

1. はじめに

香春町の各小中学校には、それぞれ歴史と伝統があり、特色ある教育活動を実践してきた。また、各学校においては、保護者や地域住民の理解や協力のもとに教育活動が展開されており、学校が地域に果たしてきた役割も大きいものがある。

しかし、近年の児童生徒の減少は町内の学校の小規模化を加速させ、本町の学校教育にさまざまな影響を与えていくことが懸念されている。

併せて、人口減少の加速化により、地方交付税、町税ともに急速に減少していくような厳しい財政状況の中で、老朽化の進んだ校舎や屋内運動場の建て替え・改築などについて、公立学校施設整備費負担金（補助金）や平成 26 年度から活用可能となった過疎対策事業債等も財源とした計画的な教育環境の整備を進めていくことが求められている。

このような中、平成 26 年 12 月に「第 4 次香春町行政改革大綱」が策定された。香春町教育委員会では、この大綱を受け、学校再編についての基本方針を策定することとした。

2. これまでの経緯

香春町では、平成 9 年度の第 2 次行政改革以降、小中学校の再編は町の最大の課題であり、関心を持って見守ってきた。平成 14 年度には香春町小中学校統廃合調査研究委員会を設置し、「中学校の統合は現時点では必要なし。小学校については、学級編成が成り立つうちは統合を見合わせる。」という委員会報告が出ている。その後、平成 17 年度の第 3 次行政改革で、「現在 2 校の中学校を 1 校の新中学校にし、現在 4 校ある小学校を 3 校の新体制とする。」という行政改革大綱を策定した。これらの事項を基に、教育委員会では平成 19 年 12 月に「香春町小中学校新校・新体制問題」の意見書を、さらには平成 22 年 12 月に設置した香春町立小・中学校再編推進準備会による「小・中学校再編推進に関する提言書」がそれぞれ提出されたが、いずれも再編を具体的に推進するものではなかった。

こうした経緯を踏まえ、香春町行政改革推進委員会は平成25年10月から15回の会議で教育施設の管理運営を含む9項目について検討・審議を重ね、平成26年9月に答申を行った。この答申を受け「第4次香春町行政改革大綱」が策定された。

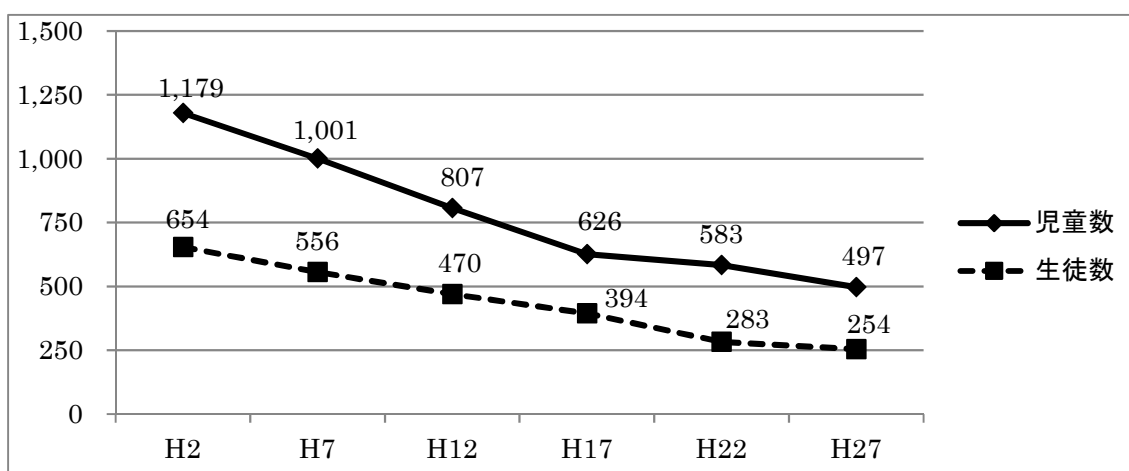
3. 再編整備の必要性

学校の適正規模については、学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第111号）第41条、第79条及び義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令（昭和33年政令第189号）第4条において「学級数がおおむね12学級から18学級までであること。」と規定されている。

また、文部科学省が平成27年1月27日に策定した公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引では、「クラス替えができるかどうかを判断基準に、小学校で6学級以下、中学校で3学級以下の学校については、速やかに統廃合の適否を検討する必要がある。」としている。

現在、香春町には小学校4校、中学校2校の町立小・中学校があるが、全国的に少子高齢化が進む中、本町においても、15歳未満の学齢人口は減少をしている。平成7年には児童数1,001人、生徒数556人であったが、平成27年4月10日現在、児童数497人、生徒数254人とそれぞれ2分の1以下に減少し、ほとんどの小・中学校に単学級の学年（1学年に1学級）がある小規模校となっている。（【グラフ1】参照）今後も児童生徒数の増加は見込まれず、平成37年頃には複式学級になると予想される。（【表2】参照）

【グラフ1 児童生徒数の推移】



【表2 今後の児童生徒数及び学級数の推移】

(網かけは複式学級の学年あり)

学校名		H27	H32	H37	H42	H47	H52
採銅所小学校	児童数	73	73	56	50	45	42
	学級数	6(2)	6	5	5	4	4
香春小学校	児童数	105	85	62	55	51	47
	学級数	6(2)	6	5	5	4	4
勾金小学校	児童数	140	189	144	127	117	109
	学級数	6(2)	8	6	6	6	6
中津原小学校	児童数	179	203	153	135	124	115
	学級数	8(1)	9	7	6	6	6
小学校計	児童数	497	550	415	367	337	313
	学級数	26(7)	29	23	22	20	20
香春中学校	生徒数	109	82	76	66	59	54
	学級数	3(2)	3	3	3	3	3
勾金中学校	生徒数	145	154	151	132	117	109
	学級数	5(1)	6	6	5	4	4
中学校計	生徒数	254	236	227	198	176	163
	学級数	8(3)	9	9	8	7	7

※平成27年度は平成27年4月10日時点の児童生徒数及び学級数。()内は特別支援学級数。

※平成32年度は平成28年度以降の新1年生を平成27年4月1日現在の住民基本台帳に基づき算定したもの。

※平成37年度以降は国立社会保障・人口問題研究所の推計を利用。

また、町内の学校施設は昭和48年以降、昭和50年代に建設されたものが多く、老朽化が著しい。(【表3】参照)よって、建て替えを含めた大規模な改修が必要になってくる。

現在、香春町の小中学校は小規模校であるが、各校の学校経営目標に基づいた学校運営がなされている。しかし、近年の児童生徒数の減少は町内の小中学校の小規模化を加速化させ、近い将来1学年1学級以上を維持することができない深刻な状況になってくる。子どもたちへの教育環境の整備は最優先される課題であり、同世代の多様な考えに触れ、互いに学び合う機会をつくり、たくましく育つ環境を整備するために、香春町においては学校の再編整備を進める必要がある。

4. 学校再編整備の進め方

香春町立小中学校再編推進審議会及び香春町立小中学校再編推進庁内委員会を設置し、地域との合意形成などの検討事項について、審議・検討を行っていく。

また、国の新たな教育制度を踏まえつつ、小中一貫教育制度を見据え、現在の4小学校を1小学校、2中学校を1中学校とする学校再編を進めていく。

なお、学校の教育的役割、児童生徒数や学級数等の将来推計、学校の小規模化に伴う課題、再編の効果について、保護者や地域の方々及び議会へ丁寧な説明を行い、学校再編の必要性についての共通理解を深めながら、保護者、地域、学校、議会、行政などの関係者が一体となって進めていくこととする。【表4】参照)

【表3 H27年度 町内小中学校校舎等の状況】

H27.4.1 現在

	建物区分	建設年月	築年数	改修工事 実施年度	耐震補強 実施年度	耐震性
採銅所小学校	校舎	H19.3	8年		対象外	○
	体育館	S48.3	42年		H21	○
香春小学校	校舎	H7.12	19年		対象外	○
	体育館	S49.3	41年		H21	○
勾金小学校	校舎A	S56.5	33年	H9	—	○
	校舎B	S57.3	33年	H9	—	○
	校舎C	S56.11	33年	H9	—	○
	校舎D	S56.5	33年		—	○
	体育館	S49.3	41年		H21	○
中津原小学校	校舎A	S60.5	29年	H9	対象外	○
	校舎B	S61.3	29年	H9	対象外	○
	体育館	S61.10	28年		対象外	○
香春中学校	校舎A	S53.3	37年	H8	H22	○
	校舎B	S54.2	36年	H8	H22	○
	体育館	S54.3	36年	H8	H22	○
勾金中学校	校舎A	S50.5	39年		H18	○
	校舎B	S51.12	38年	H8	—	○
	体育館	S56.5	33年		H18	○

※耐震性の欄の○印は、耐震診断・耐震補強工事により安全性が確認されたことを表している。

※現在の耐震基準(昭和57年以降)で建築された建物は、耐震診断・補強工事の必要がない。